

付着生物ラーバ情報

マボヤの付着が進んでいます

1 12月のラーバ出現状況

付着生物ラーバ調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2～4のとおりです。

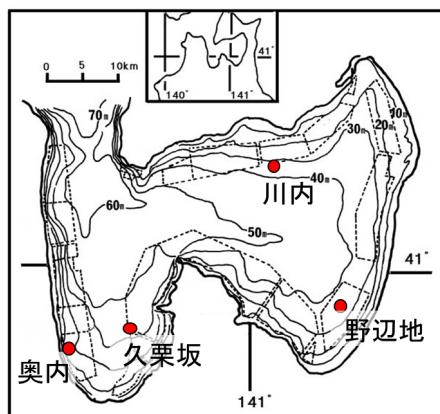


図1 付着生物ラーバ調査地点

表1 令和7年12月のラーバ等出現数

単位:個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	サンカクフジツボ	ムラサキイガイ	マボヤ	ラーバ	卵
奥内沖	12月2日	0.0	0.0	5.8	0.0	0.0	0.0
	12月8日	0.0	0.0	25.0	5.8	0.0	0.0
久栗坂沖	12月2日	0.6	2.2	19.4	12.2	0.0	0.0
	12月8日	1.6	0.0	25.0	3.1	0.0	0.0
野辺地沖	12月2日	0.0	0.0	54.7	0.8	0.0	0.0
	12月8日	0.0	0.0	54.7	0.8	0.0	0.0

(1) ユウレイボヤラーバ (通称: ハナ)

久栗坂で0.6個体/m³、野辺地で1.6個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) サンカクフジツボラーバ (通称: アカガキ)

久栗坂で2.2個体/m³見られました(表1、図3)。

(3) ムラサキイガイラーバ (通称: カラスガイ、シュリ、マルゴ)

奥内で5.8～25.0個体/m³、久栗坂で19.4個体/m³、野辺地で25.0～54.7個体/m³見られました(表1、図4)。

(4) マボヤラーバ

奥内で5.8個体/m³、久栗坂で12.2個体/m³、野辺地で0.8～3.1個体/m³見られました(表1、図5)。

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

現在の陸奥湾の水温は8～12°C台とユウレイボヤが産卵する水温となっています。

10月以降の累積ラーバ出現数は、奥内で1.6個体/m³、久栗坂で1.2個体/m³、野辺地で4.0個体/m³、川内で0.0個体/m³といずれも付着数が多くなる目安である5.0個体/m³未満ですが、春に多く出現したラーバが親となって産卵し、今後増加する可能性があります。

(2) サンカクフジツボ

出現数が減少していることから、終息に向かっていると考えられます。

(3) ムラサキイガイ

ラーバが出現していますが、秋から冬生まれのラーバの養殖籠への付着は少ないことが分かっています。

(4) マボヤ

ラーバの出現数が増加していることから、付着が進んでいると考えられます。

